



福 i z

おかげさまで
35周年

ここから始まる 仲間の和、地域の輪

いずみ

第241号

(令和7年5月5日)

コミュニティ情報

<https://fukuizu.org>



発行 /
永福和泉地域区民センター協議会
☎03-5300-9412

福 i z 地域のきずなサロン

— 踏み出せば 新たな出会い —



きずなサロンとは？



きずなサロンは「知り合いを作りたい」「誰かと話をしたい」「集まるきっかけが欲しい」というみんなの思いを実現するための、誰もが気軽に立ち寄れるつどいの場です。

きずなサロンもみの樹



健康チェックしています！

きずなサロンいずみ



コンサートひらいています！

きずなサロン峰



カラオケしています！

きずなサロン下高ふらっと



お茶・おしゃべりをしています！



福 i z とは・・・？

永福和泉地域区民センター協議会のこと。同センター等を拠点に、地域のコミュニティ形成に取り組んでいるボランティア団体です。協議会委員随時募集中。

HP:<https://fukuizu.org>



きずなサロングーデン



ダーツ・俳句しています！

きずなサロンせくら



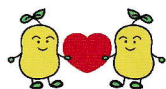
お茶・おしゃべりをしています！

きずなサロン沖繩タウン



麻雀・習字しています！

きずなサロンとは・・・？



きずなサロンは、社会福祉法人杉並区社会福祉協議会（以下、杉並社協）の支援のもと、スタッフを中心に参加者のみなさんと運営される地域住民がつながる場です。

お茶とおしゃべりをするサロン、子育てを応援するサロン、手芸や折り紙を楽しむサロンなど、さまざまなサロンがあります。杉並区全体で、44のきずなサロンがあり、福i地域でも、今回紹介する7つのきずなサロンが活動しています。

きずなサロンについては、杉並社協のきずなサロンのホームページや地域区民センター等で配布されているリーフレットを参照してください。



きずなサロンいずみ

堀ノ内1丁目

孤立予防のために8年前にマンションの1室で始めました。コロナ禍で現在の中学校の多目的室に移りました。ホールのようなとても広くてきれいな部屋です。運営に町会の支援もあるそうです。活動は月1回、**歌の先生**を呼んだり、**コンサート**をしたりと賑わっています。この日はコンサートが開かれていて皆さん一緒に歌う場面もあり楽しそうでした。聞き終わると**茶話会**の用意もあります。この日の出席者は40名を超えていました。高齢者だけでなく多世代交流が出来ればとのことでした。



きずなサロンさくら

和泉1丁目



長く続いている伝統あるサロンで、今は和泉第二町会町づくり部の事業として活動しています。季節の食事を振る舞うのが恒例でしたが、コロナ以降は集まって**おしゃべり**するのが主な活動です。近くの専修大附属高校の生徒さんとのコラボ企画もあるとのこと。長く続けるうえでは、定期的に集まれる場所と人を確保するのが一番大事だということでした。「みなさん（とくに男の人）お話しに来てくださいね」とのことでした。

きずなサロンもみの樹

和泉3丁目

介護施設で催されている地域の高齢者のみなさんのためのサロンです。毎回看護師・准看護師による**血圧測定**や**体温測定**、専門職の方による**フレイル予防体操**も行います。地域住民は介護施設がどんなところか知ることができ、介護施設は地域情報を得ることができ、地域と施設をつなぐ情報共有の場となっています。気軽に立ち寄って、いろいろ聞いて話して、楽しく笑って交流できる場所です。「毎月の健康チェック・お身体の状態確認に、ぜひおこしください」



※都合により杉並社協からの情報を元に記事を作っています

きずなサロンに参加しよう！

きずなサロンに参加してみたいと思ったら、紹介したホームページで調べてみても良いですし、開催状況を知るために、杉並社協に直接問い合わせしてみましょう。

◇連絡先／電話番号

03-5347-1017（杉並社協・地域支援課地域福祉推進係）

◇きずなサロンのホームページ

<https://www.sugisyakyo.com/suishin/small.html#kizuna>



きずなサロンを作ろう！

きずなサロンは、自分たちで新たに立ち上げることができます。

杉並社協では、きずなサロンを運営してみたいという方、会場を提供していただける方を募集しています。興味のある方は、仲間をあつめて（5名以上）、どんなサロンにしたいかを考えて、お気軽に問い合わせしてみましょう。また、サロン開設のための備品購入費や会場費などへの助成、広報の支援もしています。

※きずなサロン助成金は「歳末助け合い運動募金」が原資となっています。

杉並区立郷土博物館

準常設展「杉並文学館」——井伏鱒二と阿佐ヶ谷文士—— 特集展示 井伏鱒二と焼物

関東大震災後の昭和2年（1927年）荻窪に居を構えた作家・井伏鱒二は、以後60有余年をこの地で過ごし、近隣に住む文士と交流しながら数多くの作品を世に遺しました。本展では井伏鱒二をはじめ、彼と交流のあった青柳端穂・上林暁・外村繁・太宰治など、「阿佐ヶ谷文士」の作品とともに、文士の原稿書簡を紹介し、また特集展示として「井伏鱒二と焼物」をテーマに、所有していた古備前壺、自ら絵付けをした絵皿、随筆「コンブラ醤油瓶」の原稿などを展示します。

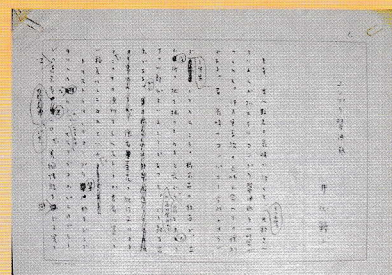
令和7年5月24日（土）～令和7年6月22日（日）

会場 杉並区立郷土博物館 特別展示室

【時間】9時～17時

【休館日】月曜日、第3木曜日（祝日・休日の場合は開館、翌平日が休館日）

【観覧料】100円（中学生以下、障害者手帳を提示する方および付き添いの方は無料、20名以上の団体は1人80円）



「コンブラ醤油瓶」原稿